

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 笑明かり・咲明かり (笑明かり)		
所在地	一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「生きてるって素敵」を目標にして、毎日を生き生きと過ごして頂く為にレクリエーション等工夫を凝らしている。ご利用者のやれる事を伸ばせるようなケアに力を入れている。又、月1回の遠足、週1回のモーニング、ランチ等の外出、夏祭りや運動会等地域の方々にも参加して頂き、地域に根ざしたホームになるよう協力を仰ぐと共にボランティア等も積極的に受け入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きてるって素敵と思える家に」の基本理念を、毎月のミーティング時に復唱し、全員で再確認している。また、「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」ができ、ご利用者1人1人に対して役割を持って頂けるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ゴミ出しや散歩などの時、自然と挨拶を交わしたり、地域の方に夏祭り、運動会に参加して頂き交流を深めている。民謡、大正琴のボランティアさんの演奏後、テーブルを囲んでゆっくり会話している。買い物や喫茶店などで地域の利用を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り、運動会、地域運営推進会議に地域の方に参加頂いたり、民謡、大正琴のボランティアさんとの交流を行っている。又、近所を散歩したり、地域の店を利用し、認知症の理解を深めて頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族と、地域の方達の参加があり、定期的に会議が行われている。会議には、主に管理者とリーダーが出席し、外部の人々の意見を参考に、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、管理者やケアマネージャーが連絡を取り合って協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、すぐ前の道路の交通量が多い為、安全面の配慮が必要で施錠時間が長くなる場合がある。身体拘束の知識を深める努力をしている。離脱の可能性のあるご利用者への取り組みを強化しており、徐々に開錠時間を延ばしている。身体拘束のない生活を送って頂くため、自由に散歩やドライブに行ける環境作りになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を深める勉強会が、内部や外部で頻繁に行われている。知識を深めていくことによって、虐待防止に繋がっていると考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が成年後見制度を利用している。法的な部分は、職員間でも理解している者が少ない。今後、職員も詳しく学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が入居時、色々な加算や、肖像権や、個人情報についての説明が行われている。ご本人やご家族から不安や疑問が聞かれた時はその度、管理者、又はリーダーが対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族の意見、要望を伺ったり、ご利用者の様子をお伝えする。何気ない一言も大切に、スタッフ間で連絡帳等を使い情報伝達を徹底し、ケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や、3か月に1度の食事会、毎月のミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体やユニット別の食事会が開催されたり、半年に1回個別面談で目標を定め、意欲向上を図り、職場の環境を良好にしようと努めている。又、リーダーミーティングで現場の声をくみ取り業務改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、1人1人にあつた研修を勧めたり受けたい研修など積極的に参加出来るようにしている。内部研修は毎月行い、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内において、勉強会の組み立てや、行事などで定期的に交流したり、ユニットずつの交流を図って意見交換している。他事業所は、外部研修などで意見交換を行っている。今後、もっと深めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境で不安にならないように、笑顔で温かくご本人に寄り添ってコミュニケーションを取っている。ティータイムや入浴時などに、個別の時間を作り、不安、要望を伺い、安心してホーム生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望を伺い、連絡帳などを利用してスタッフ間で共有し、サービス提供を行っている。サービス導入後も、ご家族と話し合いを行うなど、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の言動から思いをくみ取り、現段階でもっとも必要なケア、サービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の得意分野を生かし共に生活している。又、慣れ合いの関係にならず、自尊心を傷つけないように、人生の先輩としてアドバイスを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況の報告や、雑談をする事でご家族との関係を築いている。ご本人から、夏祭りや運動会等の行事の時に、ご家族に案内状を出し、共に参加して頂けるように働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に見えた時は、ゆっくり交流して頂く場を設けている。ご家族と馴染みの大須に行く方がみえる。しかし、馴染みの場所が遠方な方が多い為、全員には支援できていない。個々の要望に合わせて、京都や名古屋市内などに掛ける計画も考えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じお互いに応援するなど、心が1つになる場を設けている。ご利用者同士の親しい関係作りを心がけ、家事や外出時等で助け合い、感謝の言葉を掛け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に、管理者やケアマネージャーが行っている。ご本人やご家族と築き上げてきた信頼関係を、継続している。他施設に移られても、細かく情報提供し、今まで通り本人らしく生活していけるように支援している。また、いつでも訪問出来るような環境作り、関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどうしていきたいか、普段の会話を中心に、職員同士情報交換をしながら、1人1人の思いをくみ取るように努め、1人1人やりたい事をやれる場を提供できるようにミーティング時検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、1人1人の生活歴について、家族やご本人から情報収集し、希望に添えるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々行う掃除や片づけをする時に、体の力の変化を観察したり、レクリエーションなどで点数を合計する簡単な計算を行い、今持っている本人の力を把握している。又、「いつもと違う」という発言がスタッフ間で聞かれる。常にご利用者の心身についてスタッフ全員が考え、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いをくみ取りながら、毎月のミーティング時にケアプランの実践状況を確認したり、ご本人の状態変化に対応した計画を作成する様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入、連絡帳等で情報共有を行い、ミーティングで話し合いケアプランに沿ったケアが出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者1人1人の希望や要望に沿えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃より、ゴミ捨てや買い物、モーニングなど地域と共に過ごしている。又、ボランティアや消防音楽隊に来て頂いている。しかし、1人1人地域資源が異なる為、今後は、もっと理解を深めると共に、地域資源を活用に努める必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所指定のかかりつけ医に、月1回往診して頂いている。その他、ご本人やご家族が希望する、かかりつけの病院に通院して頂いている。その際、ご家族に同行して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体に出来た打ち身や体調の変化等、細かい事でも職場内の看護師に伝え、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に、管理者が行っている。入院時、サマリーの作成等で情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアは行っていない為、入居時に十分説明をさせて頂いているが、現在ユニット内に、終末期の対象に近い状態にあるご利用者がみえる。ご家族、管理者と共に、話し合いを重ね、どのように支援するか検討している。終末期に関して職員のメンタル部分も考慮し、学習を深める必要がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが、急変時の対応に慣れていない為不安を持つ人が多い。今後、不安を補う為に定期的な訓練を行い、自信をつけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っていく必要がある。災害時、職員がどのように動くのかを徹底し、災害に備える必要がある。今後、災害マニュアルをわかりやすくして、スタッフの目の付く所に掲示し、常に確認できるようにしたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないように、人生の先輩として関係を築いている。例えば、居室に鍵を掛けたい方はかけて頂いて、鍵を携帯されている。居室に入る際どの居室も、一声掛けて入室している。又、気の合わないご利用者同士の座席の配慮などを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時と15時のおやつ時間に、好きな物をメニューの中からご本人が選んで、飲み物を決めて頂いている。習字や手芸、家庭菜園などをやりたい人が出来る環境にある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送って頂くようにしている。又、共同生活で、入浴、食事等の時間は決まっているが、その他、テレビを見たり、色塗り、折り紙、仮眠を取るなど、可能な範囲で希望に応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服をご自分で選んで頂いたり、2ヶ月に1度の訪問美容室で髪を染めたり、髪飾りをしている。男性は髭に気をつけるなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考え、食べたい物を取り入れている。好き嫌いを把握して提供している。又、買い物から片づけまで利用者様と共に行っている。食事中に楽しめるような環境作りにも努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は記録し、過不足にならないようにしている。糖尿の方、腎臓の悪い方などの状態を把握し、日々気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、特定の方しか行えていない為、毎食後行っていくように努める。又、口腔ケアを断られる方への取り組みも少しずつ強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握するよう努め、早めの声掛けでトイレで用が足せるようにしている。出来るだけ失敗がないように、スタッフが各自気をつけて声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な方は処方してもらった薬を飲んでいる。又、朝食に自家製ヨーグルトを皆で食べたり、体操や散歩をして体を動かし自然な排便が出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は、週3回の午後からとなっている。1番に入りたい方、ゆっくり入りたい方、1人1人の希望に沿った支援をしている。又、入浴を楽しんで頂けるように、脱衣所では音楽を流している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、体調に配慮しながら休息している。又、就寝前には穏やかな会話を心がけ、よく眠れるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、全ての薬を把握できていない。服薬について研修を受けた職員が研修の報告を行い、職員の知識を深めている。又、当ユニットで、どのような薬を飲んでいるのか分かるように写真付き解説書がおいてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月2回の習字、ボランティアの民謡や大正琴に参加している。他に喫茶、ドライブ等で気分転換を図っている。又、個々の楽しみとして将棋や歌を歌ったり、園芸やビールを飲んだり気分転換できる環境作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の行きたい所、馴染みの場所、やりたい事等を聞きながら、ご家族、地域の方の協力の下、ご利用者本人が楽しんで頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ユニットにはお金を所持されている方はみえない。お金の管理は施設側が行っている。金銭面の訴えをされる方はみえないが、今後、個々の能力に応じて、小銭程度の管理を行って頂く事を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に合わせての手紙や、夏祭り、運動会の案内を出している。ご本人が手紙や電話を希望されれば、好きな時に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけ、写真、作品を掲示し、いつでもご利用者、ご家族、訪問者が見れるようにしている。又、BGMは、朝はすがすがしく、レクリエーション時は快活に、食事時は料理によって雰囲気のあるような音楽を選んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングに、食事スペースと、ゆっくりくつろげるソファのスペースがあり、思い思いの場所で気の合った方と話したり、ウトウトしたり、テレビを見たりしながら過ごされている。又、席の組み合わせ等は、気の合ったご利用者同士が一緒になれるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、1人1人がリラックスできるように、使い慣れた家具や思い出の写真、仏壇、人形などを持ち込み、ご本人好みの配置がされており、プライベート空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、脱衣所は、隅々まで手すりがあるなど自立した生活が送れるようになっている。又、道具もそれぞれに合った物を使用している。		